

	南ブリタニア (イングランド)	イベリア (スペイン)	ガリア (フランス)	イタリア(+ローマ教会)	ライン川以東	ステップ地帯～東欧	バルカン以東
					ゲルマン人 バルト海沿岸辺りに居住 南下 先住民ケルト人西方へ		
	ゲルマン民族の移動の軌跡 西ゴート人 ドナウ川を南下 → バルカン半島を 西へ → イタリア侵入 → ローマ略奪(410) → ガリア南部へ → 西ゴート王国建国(418) → クローヴィスに敗北(507) → イベリア半島へ 東ゴート人 フン人に服属 → イタリアに侵入 → 東ゴート王国建国(493) ヴァンダル人 ガリアを横断 → イベリア 半島へ → 西ゴート人の圧迫 → 北アフリカへ → カルタゴにヴァンダル王国建国(429) ブルグント人 ライン川中流域 → フン人に 敗れガリアへ → ガリア東南部に定着 → ブルグント王国建国(443, ブルゴーニュ地方の語源) フランク人 ライン川下流域 → ガリア北部へ アングル人、サクソン人、ジュート人 エルベ川下流、ユトランド半島 → ブリタニア南部へ ランゴバルト人 ライン川・エルベ川間 → 北イタリア (ロンバルディア地方の語源)		カエサル「ガリア戦記」にゲルマン人の記述 ローマ帝国(前27～) トイトブルクの戦い(前9) ローマ軍、ゲルマン民族に敗れる ライン川・ドナウ川を境として防衛 タキトゥス「ゲルマニア」(1世紀後半) マルクス=アウレリウス =アントニヌス(161～180) ゲルマン部族の領内への定住を許可 ゲルマン人、ローマ帝国の傭兵に(3世紀以降)		ゲルマン人、ローマ帝国と接触 ゲルマン人、ローマ帝国に敗れる ゲルマン部族の領内への定住を許可 ゲルマン人、ローマ帝国の傭兵に(3世紀以降)	フン人、ステップ 地帯を西進	
200							
300							
400	アングル人・サクソン人 ジュート人、ブリタニア 南部に侵入 ケルト人を征服 20あまりの 小国家群	ヴァンダル王国 (429～534) アウグスティヌス 「神の国」(427) ローマの衰退は キリスト教のため ではないと主張	西ゴート王国 (418～711) (ガリア東南部) ブルグント王国 (443～534) クローヴィス (481～511) クローヴィス、フランク人を統一(481) フランク王国 (481～843) メロヴィング朝 (481～751)	テオドシウス1世(379～395) ローマ帝国、東西に分裂(395) 西ローマ帝国(395～476) カタラウヌムの戦い(451) 西ローマとゲルマン諸部族 の連合軍、アッティラを破る 教皇レオ1世、アッティラと 会見(452) ゲルマン人傭兵隊長オドアケル 西ローマ帝国を滅ぼす(476) オドアケルの王国(476～493) 東ゴート王国(493～555)	西ゴート人、帝国領内を 西へ移動 西ゴート人 ドナウ川を渡る アッティラ (434～453) アッティラを破る アッティラと 会見(452) オドアケルを率いて イタリアに侵入		東ローマ帝国 (ビザンツ帝国 395～1453)
500							
600	七王国(ヘプターキー) に統合(6C終わり)						
700							
800							
	西ゴート王国 ウマイヤ朝により 滅亡(711) アストゥリアス王国 成立(718) 後ウマイヤ朝 (756～1031) イスラーム勢力に 侵攻(778) スペイン辺境伯 領設置(795)	西ゴート王国 (418～711) フランク王国、分割相続制を取る フランク王国3分国制に アウストラシア(東部) ネウストリア(西部) ブルグント(南部) 分国の宮宰(貴族の リーダー)が実権を握る アウストラシアの宮宰 カロリング家 宮宰カール=マルテル トゥール・ポワティエ間の戦い(732) イスラーム勢力を撃破 ビピン(751～768) カロリング朝(751～987) イタリア遠征(754, 756) カール大帝(768～814) 王国の統治 伯 人口数万人ごとに管区を設定し、伯を置く 巡察使 伯を監督 → 中央集権体制を目指す カール、領内を移動し伯と関係を保つ 実質的に地方分権、 封建的体制	ランゴバルト王国(568～774) アルポイン王(565～572) 西ゴート人やアングロ=サクソン人を改宗 (ベネディクト派修道士の活躍) ローマ教会、異教徒 への布教のため に聖像を用いる ローマ教会 フランク王国との 関係深める ランゴバルト王国滅亡 (774) 教皇レオ3世(795～816) 教皇、カールに戴冠(800)	アタナシウス派の五本山 ローマ、コンスタンティノープル・アンティオキア イェルサレム・アレクサンドリア ローマ司教、ペテロの 後継者を自称 ローマ司教、教皇 (Papa, Pope) と呼ばれる ローマ=カトリックへ 教皇グレゴリウス1世(590～604) 西ゴート人、フランク族に敗れる(507) アタナシウス派 = ゲルマン民族の信仰 アタナシウス派 = ローマ人の信仰 アタナシウス派の五本山 ローマ、コンスタンティノープル・アンティオキア イェルサレム・アレクサンドリア ローマ司教、ペテロの 後継者を自称 ローマ司教、教皇 (Papa, Pope) と呼ばれる ローマ=カトリックへ	アタナシウス派の五本山 ローマ、コンスタンティノープル・アンティオキア イェルサレム・アレクサンドリア ローマ司教、ペテロの 後継者を自称 ローマ司教、教皇 (Papa, Pope) と呼ばれる ローマ=カトリックへ アタナシウス派の五本山 ローマ、コンスタンティノープル・アンティオキア イェルサレム・アレクサンドリア ローマ司教、ペテロの 後継者を自称 ローマ司教、教皇 (Papa, Pope) と呼ばれる ローマ=カトリックへ アタナシウス派の五本山 ローマ、コンスタンティノープル・アンティオキア イェルサレム・アレクサンドリア ローマ司教、ペテロの 後継者を自称 ローマ司教、教皇 (Papa, Pope) と呼ばれる ローマ=カトリックへ	テオドリック王 東ゴート人を率いて イタリアに侵入 ユスティニアヌス 1世(527～565) ヴァンダル王国 を征服(534) 「ローマ法大全」 (ローマ法を集大成、 トリボニアヌスの尽力) 東ゴート王国を 征服(555) 地中海の覇権を一時回復 イスラーム勢力の台頭 → ビザンツ、防衛力強化を目指す ビザンツ帝国の統治機構 軍管区制(テマ制) 帝国を幾つかの軍管区(テマ)に分け、それぞれ 軍事・行政の権限を持つ司令官を置く 屯田兵制 コロヌス(小作人)を解放、スラブ人 を移住させて土地を与え、兵役を課す レオン3世 (717～741) 聖像禁止令(726) ビザンツ帝国、ローマ 教会の教義へ圧力 女帝イレネ (797～802) 聖像崇拝を復活 聖像崇拝、正統と される(843)	